

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

## Stay Smile こんにちは。『地域おこし協力隊』です!

6月に地域おこし協力隊の仲間が1名増えました! 今月は新人協力隊員の自己紹介です。

6月より富士見町の地域おこし協力隊に加わりました松田裕多です。富士見町に来る前は東京で夫婦共に都内の企業でデザイナーとして働いていましたが、30歳を境に生活の拠点を自然に近い場所へ移すことを決意し、富士見町に移住してきました。アウトドア好きということもあり、富士見には幼い頃からスキーや八ヶ岳へ登山をしによく足を運んでいたこともあり、まさかその地に住むことになるとは、その頃は夢にも思いませんでしたが(笑)。

ここへ来るきっかけとなったのは、私の職場でもある「富士見 森のオフィス」との出会いがきっかけです。自分が好きな山の麓で、新しい働き方を実践する人たちの姿を見て、仕事も生活も都心とは違った刺激を得られるのではないかと、思い移住を決めました。

富士見町の地域おこし協力隊の一員として富士見 森のオフィスの運営/管理に携わり、以前より富士見で生活されておられる皆様と、私のようにこの地に魅かれて移住を考えている方々との橋渡し役となって、富士見町全体がさらに魅力的な町になるよう取り組んでいきたいです。また、自身のデザイナーとしての経験を活かし、富士見町に貢献していけるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します!



## Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの場所から~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

### 野外保育体験

野外保育森のいえ“ぼっち”では、未就園の幼児と保護者が遊びながら野外保育を体験できる日として「園開放日～親子で野外保育体験～」を5月24日(火)に開催しました。

この日園児たちは焚き火で昼食作りをする日で、開放日に遊びに来た親子も、園児と一緒に野外調理体験をしました。メニューは、ごま塩ごはんと具たくさん味噌汁。2歳の子どもたちも、ぼっちのお兄ちゃん、お姉ちゃんがやっているのを見て、真似をして一生懸命包丁で野菜を切ってくれました。園児が火の管理をしながら羽釜で炊いたご飯、みんなで切った野菜がゴロゴロ入ったお味噌汁は、園児にも遊びに来てくれた親子にも大好評で、おかわりが続出でした。



参加された保護者は、幼児でも野外調理ができることに感心されていました。もちろん、要所所で大人のサポートは必要です。でも、日常的にこのような活動をしている子どもたちは、包丁の扱い方ひとつとっても、どのような行為が危ないか、どう力を入れれば切りやすいか、小さな子がやりたい時には大きい子はどうかサポートするのがいいか、を知識としてではなく、体験として身につけています。出来上がったごはんとお味噌汁を、用意した器に盛り付けるのも自分でやります。自分にあつた適量を体験的に知っていきます。



みんなで力を合わせて作った昼食を、青い空のもと、新緑の林を吹く風を感じながら美味しくいただきました。

今後のぼっち開放日～野外保育体験～は、

- 8月31日 川で遊ぼう
- 10月13日 葉っぱや木の実で遊ぼう です。

興味関心のある方は、ぜひいらしてください。



## ◆今井 邦彦さん（立沢）

2014年に富士見町へ移住し、就農2年目になります。立沢でフルーツトマトを栽培しております。

農業について学びたい思いで8年前に長野県へ移り住み、ようやくトマト農家として第一歩を踏み出すことができましたが、就農1年目となる昨年は、栽培管理の遅れなどの問題や予期せぬ困難にも直面し、思い描いていた以上に厳しい状況でのスタートになりました。しかし町の農業関係者の皆様方、親身になって相談に乗っていただいた農業の大先輩であるご夫妻など、周りの方々に支えられ、何とか乗り切ることができたことを深く感謝しております。また、日頃子供たちがお世話になっている保育園や町の職員の皆様方にも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

初年度は農業経営の難しさに加え、自分自身の課題も見出す形となり、今後の糧となる密度の高い一年を過ごすことができましたように思います。今後規模の拡大やそれに伴った雇用なども検討しつつ、経営の効率化、トマトの品質向上にもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

まだまだ未熟ではありますが、地域に貢献する形で恩返しができるよう、より一層努力を重ねていく覚悟でおりますので、どうぞよろしくお願いたします。



## Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ 富士見町子ども読書活動推進委員会 事務局 ☎62-7930

## 富士見町子ども読書活動推進計画(第2次)

今回は、「英語のおはなし会」を担当していただいている川合双葉さんに、おはなし会の様子を紹介していただきます。

図書館で英語のおはなし会を担当させていただいてもうすぐ7年になります。月に一度ですが毎回3冊くらいの本を読むので読んだ本は250冊くらいになったのでしょうか。でも子どもたちにお気に入りの本は繰り返し読んだので、実際はもっと少ないかもしれません。

今まではおはなし会に来てくれたのは0歳からたぶん70代までと幅広いのですが、一番多いのが園児さんや小学校低学年のお子さんです。

その時によって歌を歌ったりカードゲームなどをすることもありますが、メインはやはり絵本です。ストーリー性のある本は読んでいくうちにお話に引き込まれていくのがわかります。初めはざわざわしていたのが、すーっと静かになります。ところどころ日本語で説明しますが、繰り返しの部分などは英語だけで理解できます。

赤ちゃんがいるときは手遊びをしたり、歌を歌ったり。仕掛け絵本も子どもたちは大好きですね。パズルのようにピースをはめたり、ボタンを押して音を出したり、めくったり引っぱったりすると隠れていたものが飛び出したりする仕掛けになるのがあります。園児さんなどは自分がやりたくてどんどん前に来るので順番でやってもらいます。

富士見町の図書館は、おはなしの部屋の入口のそばに英語の絵本が置いてあり、その中にもたくさん楽しい本があります。お勧めは絵が分かりやすく、ページ数が少なく（16ページくらいまでがベスト）、1ページに1文程度の絵本です。最近CDがついているのもあるので、お子さんと一緒に聞くのもいいですね。でもやっぱりおうちの方が読んであげるのが一番いいと思います。読み聞かせの記憶はお子さんにとって一生の宝物になりますよ。

お母さんやお父さんと一緒に、図書館で借りた本を抱えながら来てくれるお子さんを見ると、小さいころから本が身近にあるんだな～、お家でも読み聞かせをしてもらっているんだな～とこちらまでなんだかうれしくなります。

なのでおはなし会の後はいつもほのぼのとした気持ちで帰ります。子どもたちもグッバーイ、とかサンキューとか言ってくれます。毎回楽しいひと時を持つことができ、参加者や図書館の方々にとっても感謝しています。

※次回は図書館からイベントのお知らせです。

